

立山杯参加チーム「アバンツァーレ東北」選手代表から「お礼の言葉」

2011年3月11日に発生した東日本大震災によって立山杯に参加が危ぶまれていた「アバンツァーレ東北」チームは同年も奮って参加されました。当会はそれまでの大会で募集していた義捐金に合わせて立山杯参加チームから募った金員を8月16日の閉会式において「お見舞金」として、更にそれまでの大会で使用した試合用サッカーボールを東北の被災したチームにて使用していただくよう贈呈しました。その後の立山杯も毎年参加され、その都度試合用サッカーボールを閉会式にて贈呈のセレモニーを行って参りました。

今年も参加されましたが、ご承知のとおり強雨落雷のため15日は途中で試合中止、16日は開始してみたものの悪天候が続き、止む無く大会を中止せざるを得ないというアクシデントに見舞われました。

同チームは閉会式の贈呈セレモニーにおいて震災被災地の選手代表が答礼を述べる準備していらっしゃいましたが、閉会式も取り止めになり全員参加のもとでの答礼の言葉を承ることが出来ず、本部テントの中で一部の役員だけが拝聴するという事となってしまいました。

つきましては、その選手代表の「お礼の言葉」を次のとおり開陳いたしますのでご高覧ください。

【お礼の言葉】

僕はアバンツァーレ仙台SCの市田幹太です。よろしくお願ひします。

僕は、宮城県岩沼市というところに住んでいます。仙台空港から南へ約5キロメートル、海から約1キロメートルのところに住んでいます。僕の家や通っている学校も津波の被害にあいました。今まで住んでいたところが全く別な場所変わったようで、震災の恐ろしさを目の当たりにしました。

震災から3年5か月が過ぎましたが、いまだ復興できていない市や町もあります。僕の住む岩沼市は集団移転地が決まり少しずつ復興のきざしがみえはじめています。

これまで全国から来てくださったボランティアの方々やたくさんの小学校からはげましの手紙や千羽鶴などをいただきました。立山杯でいただいているボールは毎年岩沼ライオンズ杯という大会で参加チームに贈らせていただいています。

これからも感謝の気持ちを忘れずに全力でプレーしていきたいと思います。これで終わります。ありがとうございました。

